

光明寺だより

第80号
浄土真宗本願寺派
光明寺

T 793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583



心に残る詩

再生力

大阪市 今井雅美 42



酷いかさぶたの下から
ある日 突然現れた
まつさらな柔らかい肌

私の心のかさぶたも
いつかきれいに
ぼろりとおちて
美しい私に
出会えるかな

あともう少し
がんばってみよう
自分の中にある
再生力を信じて

産経新聞
朝の詩「10月月間賞」より

新春特別法座

1月11日(金)

おつとめ 3時30分

講演 4時

【講師】

備後教区・光徳寺前住
元・本願寺基幹運動本部長
藤田徹文先生

一口法話

前向きに生きる



私たちが生きてゆく人生は、さまざまに「変」（移り変わっていくこと）から成り立っていると云えます。

具体的に言えば、生・老・病・死、出会い、別れ、結婚、就職など、「今まで」と「これから」が違うこと、つまり、それが「変」です。

前向きに生きるとは、その「変」の前で立ち止まらずに、それと歩調を合わせて一緒に歩むことです。

とすれば、年老いてゆく中に、「あの頃（若い頃）はよかったのに…」と、嘆くのは「後向き」です。

嘆くその瞬間も刻々と進む老いと共に歩むことができず、取り残されているわけです。

「五十歳の時にわからなかったことが六十歳になってうなづけた…」

「この年齢にならなければわからないことがあるものだ…」

と、老いと共に歩いていくのが「前向き」です。

また、病気になるたときに、

「今まで元気だったのに、どうしてこんなことに…」と嘆く姿は、病気の現在と一緒に歩いていません。

「病気になるって初めて家族とこんなに話ができた…」となれば、病と共に歩みを運んでいることになりません。

そういう意味では、前向きに生きることは、「今を引き受けて 生きること」と、と言ってもいいでしょう。

そして、やがて誰もが人生最後の「変」である「死」に臨みます。

その時、浄土への往生を信じる人は、「今生の終わりである死はまた、浄土への一歩」として踏み出すことが出来るのです。これは「前向き」です。

しかし、現世しか持たないような生き方は、どんなに 前向きだと言っても、見せかけに過ぎません。

「死んだらしまい」という生き方では、その先は何もないのですから、死の淵の前に立ちすくんでしまいます。これは「後向き」です。

さらに親鸞聖人は、浄土に生まれた「いのち」は、そこが最終点ではないと言われます。

浄土へ往生した後は、そこに留まることなく、ご縁のあった人たち（子や孫など）を導くために、またこの世界に還って来るのです。

つまり、浄土に留まることなく、さらに一歩を踏み出すという訳ですから、浄土真宗の教えに生きる人は、徹底的に前向きであるといえるでしょう。

（島根県・西楽寺HPより抜粋）



お母さんを百万遍



長年、多くの児童詩を世に紹介してこられた全旨の詩人、佐藤浩さん（青い会主宰）が編集解説された、児童詩誌『遠くへ行かないで、お母さん』（ぱるす出版）のあとがきに、次のようなお話が紹介されていました。

私がある小学校へ講演に行った時のことです。終了後、座談会の席でY先生から次のような質問がありました。私の受け持ちの小学四年生の子がこんな詩を書いたのです。

（*一部漢字に変換しています）

お母さんが	車に	はねられた
お母さんが	病院の	霊安室に
	ねかされていた	
お母さんを	火葬場へ	つれていった
お母さんが	骨に	なってしまうた
お母さんを	小さな	はこに入れた
お母さんを	ほとけ	さまに
お母さんを	毎日	おがんで
		いる

私はその子に「お母さんは一回書けばそれでわかります。だから二行目以下のお母さんは書かなくてもいいよ」と。しかし、その子はどうしても分かってくれないのです。こんな時はどう指導したらいいのですか。

私は即座に答えました。

「その子の気が済むまで何回でも書かせてあげてください。詩の形を整える前に、その子の悲しみも分かち持つてみてください。そうすれば、なぜお母さんが一回ではダメなのか分かると思います。もしその子がお母さんを百万遍書きたかったら、百万遍書かせてあげてください」

Y先生は声を詰まらせながら了承してくださいました。

そのお母さんのいなくなった、あまりの寂しさに、あまりの悲しさに、この子は「お母さん、お母さん」と何度も何度も書き綴らずにはおれなかったのです。

書き綴るその子の心の中に、お母さんは生き続けています。

書いているのは子供ですが書かせているのはお母さんの愛です。

それはまさに、お念仏（仏のみ名を呼ぶ）に相通じるものがあります。

真宗大谷派の学僧・金子大栄先生はこう語っておられます。

「念仏することは、私が念仏するのでなくして、仏の心が我らに表われて念仏となるのである。だからこれが私の念仏であるというものはない。念仏申す者は確かに私に違いないが、念仏申させたのは阿弥陀である」

私が称える一声の念仏の背後に、我が「いのち」を包んで捨てない阿弥陀さまの大いなるハタラクがあるのです。そのことを思う時、あらためて衿えりを正して、お念仏申さずにはおれませぬ。

秋の彼岸会法座つとまる



さる9月29日(土)、^{すえひら}季平博昭師(備後教区・法光寺住職)をご講師にお招きして「秋の彼岸会法座」が行われました。台風の影響で当日はあいにくの雨模様でしたが、35名の参拝者がありました。

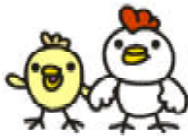
【講演主旨】

浄土真宗の生活信条の第一節に「み仏の誓いを信じ 尊いみ名を称えつつ 強く明るく生きぬきます」ということが謳われています。

み仏の誓いとは“あなたが浄土に生まれることが出来なければ、私は仏に成りません”という阿弥陀さまの誓いのことで、本願(本当の願い)とも誓願とも言います。それは“あなたが幸せでなければ私は幸せにはなりません”“あなたの幸せが私の幸せです”という同悲同苦のお心であります。「み仏の誓いを信じ…」とは、その阿弥陀さまのお心を支えにして生きるということです。

またその誓い(心)を形(言葉)に表わしたものが“南無阿弥陀仏”です。形(言葉)を通して私たちは阿弥陀さまのお心を身近にいただくことが出来るのです。

阿弥陀さまのお心を支えにし、南無阿弥陀仏とお念仏申すとき、安らかで豊かな人生が開かれてくるのです。



平成25年度行事予定表

日時	行事名	講師
1月11日(金)午後4時	新春記念法座	備後教区光徳寺前住・藤田徹文師
1月16日(月)	正月参拝	
3月07日(木)午後1時	愛媛県仏教婦人研修大会	医療法人精光会理事長・宮崎幸枝女史
3月15日(木)午前9時	涅槃会	
3月30日(土)午後2時	彼岸会法座	大阪教区法栄寺前住・小林顯英師
5月23日(木)午後2時	宗祖降誕会	兵庫教区安養寺住職・足利孝之師
8月13日(月)14日(火)	新盆合同追悼法要	
8月16日(木)	お盆参拝	
9月28日(土)午後2時	彼岸会法座	本願寺中央相談員・季平博昭師
11月28日(木)午後2時	報恩講	大阪教区西光寺住職・天岸浄圓師
12月31日(月)	除夜会・元旦会	

(注) 行事の追加、変更は本紙にてお知らせいたします

「報恩講」 厳修！

浄土真宗では最も大切な行事である「報恩講」が、11月30日（金）つとまりました。おつとめの後、恒例の法座皆勤賞の表彰を行い、引き続き住職がお話をいたしました。また、副住職のお嫁さんの紹介も併せていたしました。

今年の法座皆勤者は次の方々でした。石川博史 谷口幸平 永井初江 野間幸子 松本朱美 森賀英幸 森賀愛子 森賀美代子 森本隆雄 森 延子 安永省一 安永敏枝（敬称略）



法座皆勤者の皆さん。
今年は12名でした。



“大変穏やかで素直なお嬢さんです”
……新婦紹介の様子

【話の主旨】

仏教は目覚めた人（仏）の教えであり、目覚めた人（仏）になりましょうという教えです。何に目覚めるのかというと、一つには、愚かな我が身に目覚めるのです。今一つは我が「いのち」はなくならないという真理に目覚めるのです。

この人生は思い通りにならないことがしばしば起こります。そうした時、「こうなったのはあれが悪いからだ、これが悪いからだ」とその原因を外に求めるだけでは決して問題は解決しません。そうではなくて「こんな事になったのは、私が至らないばかりに…」と、その目を内に向けることが出来れば、あらゆる問題は解決します。愚かな我が身に目覚めるとはそういうことを言うのです。

また二つ目の「いのち」はなくならないということですが、この世界は縁起によって出来ています。つまり、この世界のありとあらゆるものが結びついて（縁起）、それが大きなハタラキとなってすべてのいのちを包み生かしているのです。その大きなハタラキのことを仏教ではアミダ・法性法身・自然・一如・真如・他力等々と呼びますが、我が「いのち」はそのハタラキの世界から生まれ出て、その世界へ還っていく「いのち」なのです。

そのことに目覚めた人は次のように語っています。

★死ぬということは、どこかに消えてなくなるのではなく、元々の如来さまのいのちの中に還っていただくことです（本願寺教学伝道センター顧問・大峯顕）

★死ぬということは消滅してしまうことではなく、いのちのふるさとに帰るだけのことなのです（西念寺坊守・鈴木章子）

趣味の広場



俳句を楽しむ(五十九)

森本隆を

今年は季節の進行が順調で山野の紅葉も美しく、立冬を過ぎると朝晩の冷え込みにいよいよ冬の到来を感じさせられます。今回は十二月の日を追いながらいくつかの句を鑑賞してみましよう。

まず、十二月八日。ある程度以上の年齢の方ならこの日は太平洋戦争の開戦の日だとすぐ思い当たりますね。

十二月八日に触れず授業了ふ 明石星一
老人の海を見てゐる開戦日 畠中順一

「開戦」などという言葉は威勢よく聞こえますが、三年半後の悲惨な敗戦と戦後の大変な困難を思い出すと、ここに掲げた二句の思いや光景が素直にひびいてきます。二句めの老人は海に向こうに何を見ようとしているのでしょうか。十二月九日は京都・了徳寺で行われる「鳴滝の大根焚」という行事の日です。親鸞聖人が鳴滝の地で法を説いた時、里人が大根を炊いてもてなしたものを聖人が大変喜ばれたという故事による行事です。この日お参り

して大根焚をふるまわれると中風にならないという俗信もあるそうです。

このたびは雨の閑法大根焚 岸田稚魚
仏縁の一と日を京に大根焚 辻花枝

以上の二句とも季語「大根焚」を詠み込んで実は、遠路はるばるお参りをして浄土真宗の教えを聞く有難さを詠んでいます。弥陀の本願を一途に信じる、心豊かな日暮しの中で生まれた句ですね。十二月十三日は「煤払い」の日です。江戸期にはこの日は町々に煤払用の煤竹売りが出て町内一斉に年を越すための大掃除をする日と決めていたのです。

煤掃きや調度すくなき人は誰 蕪村
灯を吊って格子を洗ふすす払 岡本松浜

一句め、よその家の手の内も判ってしまうほどの家も戸を開け放つての大掃除。二句め、忙しくてつい遅れ、夜になってもまだ終らない家もあり、でも手を抜かず一年の汚れを払っているのです。翌十二月十四日は言うまでもなく「赤穂浪士討入りの日」です。この日、義士の墓所である東京・泉岳寺は今でも参詣者が多く香煙は終日絶えることがないそうです。日本人の最も愛する年末ドラマの定番でもあるのが赤穂浪士の討入ですね。

天窓見て義士討入の日と思ふ 加倉井秋を
義士の日の出店が売れり鯨尺 北野民夫

二句め、当日は義士の墓参が盛んなのを当て込んで多くの出店が商いを競います。討入にちなんだ蕎麦などはわかるのですが、多勢の人出を頼りに鯨尺のような日用雑貨まで売

ろうとするその面白さを句に詠んだのです。珍しいのは十二月十八日は松山での初雪平年日というのがあります。長年のデータをもとに計算すると十八日に初雪が松山に舞うのだということになったのですね。

さて、十二月三十一日は「大晦日」ですね。同じ日を季語として「年越し」、「除夜の鐘」「晦日蕎麦」など多くあります。

大晦日定めなき世のさだめかな 井原西鶴
大晦日地のいづこから夕雀 野竹雨城

さて、我が光明寺でも大晦日の夜十一時四十五分頃から除夜の鐘をつきます。毎年三十人前後のお参りがあり、鐘をついた後、本堂に於て「除夜会」を催しています。一年のしめくりとして御法話を聞き、心引き締めて新しい年を迎えるのはとてもいい事です。どうかよいお年をお迎え下さい。





結
婚
式

祝



晴天に恵まれた11月18日、当山副住職（釋一心）が片上真美さん（片上製材さんの次女）と、めでたく結婚いたしました。当日は午前10時より、光明寺本堂において、結婚の儀がとり行われ、午後からベルフォーレで結婚披露宴が行われました。結婚の儀は四名の若手僧侶の協力を頂き、両家親族参列の中、大変しめやかにまた厳粛に執り行われました。披露宴は新郎新婦に親しくご縁を頂いた知人友人ばかりということもあって、アットホームな心温まる披露宴になりました。

家庭生活を始めてまだ半月余りですが、お寺のために頑張っていこうという二人の前向きな思いが感じられ、大変嬉しく思っております。これからの人生、互いに敬い助け合いながら、念仏のみ教えを支えにして、歩んでもらいたいと願っています。

山門横に北山杉、記念植樹！



11月20日、上喜多川の石川博史さんのご好意で、山門横に北山台杉（通称一北山杉）を2本植えていただきました。光明寺の檀家さんでもあるハルクの専務（松浦松男さん）もご一緒にお手伝いいただきました。

副住職結婚の良い記念になりました。

光明寺のホームページ

西条光明寺

又は

南岳山光明寺

検索



[http://www.koumyouji.com./](http://www.koumyouji.com/)

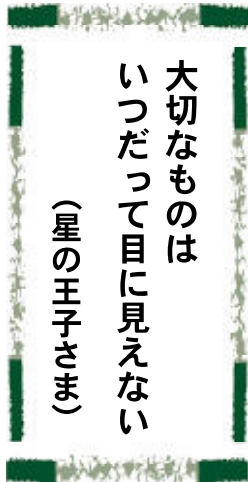
平成25年度年忌早見表

「年忌繰り出し」を該当者に配布していますが、手作業のため見落とすことがあります。必ず、ご自宅の過去帳で確認して下さい。

回忌	死亡の年号
1周忌	平成24年
3回忌	平成23年
7回忌	平成19年
13回忌	平成13年
17回忌	平成 9年
25回忌	昭和64年 平成 1年
33回忌	昭和56年
50回忌	昭和39年
66回忌	昭和23年
100回忌	大正 3年
150回忌	元治 1年
200回忌	文化11年
250回忌	明和 1年
300回忌	正徳 4年



言葉のプレゼント



次回発行予定…2月上旬

「光明寺だより」をご家族の皆さんでお読み下さい

★11月18日(日)、副住職(釋一心)の結婚式が行われました。多くの方々からお祝いを頂戴しました。紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。有り難うございました。
 (*関連記事7ページ)

★11月30日(金) 報恩講が行われました。三十名の参拝がありました。
 (*関連記事5ページ)

★山門横に石川博史さんのご好意で北山杉を植樹していただきました。
 (*関連記事7ページ)

